

令和8年度（2026） 前期始業式 校長あいさつ

皆さん、おはようございます。ただ今着任式にて新しく本校に着任された先生方を紹介しましたが、生徒の皆さんにとっても、新年度は大きな変化が訪れる時です。環境が変わるといふことには緊張と不安がつきものですが、同時に変化の刺激が新たな成長を生み出す時でもあります。ぜひ前向きな気持ちで臨んで下さい。

さて、世界は今、たいへん困難な時を迎えています。平和を享受するということがいかに難しいことであるか、私たちは多くの歴史的事実からそれを学んでいます、大切なことは、現在の世界を取り巻く困難な現実が、どれくらいの説得力を持って皆さんの心に訴えかけているかです。すなわち、世界と日本との関係が、私たち個人にどのような影響を及ぼしているのか、そしてその中であって私たち個人はどのように行動すべきか考えられているかということなのです。

個人と国家の関係性については古くから多くの思想家や哲学者が議論しています。しかし、ここで皆さんに伝えたいのは、プラトンやジョン・ロックなどの知識人たちの言っている、「国家と個人のどちらが優先されるか」といった議論ではなく、世界の中の一市民として、グローバルな視点で物事を考える重要性についてです。

約265年間続いた江戸時代が終わり、明治維新を迎えることとなったのは、長い鎖国の時代を経て、黒船の来航をきっかけに、帝国主義的な考えが蔓延していた世界の中でいかに振る舞うかを気付かされた我が国の選択であったとすることができます。このように、国家は世界の中で常に変化していくものですから、そこに住む個人もその影響を大きく受けることになります。

皆さんは「内集団バイアス」という言葉を聞いたことがありますか。人間は今自分が属している集団における価値観や理論を最優先してしまい、他集団の理論や考え方を過小評価してしまうのだそうです。極言すれば、今自分がいる集団の常識が一般社会の常識よりも優先されてしまうことがある。これは怖いことです。決して「井の中の蛙」となってはならないのです。

多摩高校は世界でリーダーシップを発揮できるグローバル人材を輩出することを目標の一つに掲げています。皆さんにはぜひ、今現実世界で起きていることを自分事として捉え、大きな視点で自己をとらえる習慣を身に付けてほしいと思います。

それでは、今年度も皆さんの活躍する姿を楽しみにしています。チャレンジする気持ちを忘れず、高い目標を設定して頑張ってください。